

第9回 事業推進委員会・議事録

開催日 : 平成18年12月13日 (水) 午後4時から午後6時  
場所 : 京都コンピュータ学院 京都駅前校 新館4階 会議室  
メンバ : 委員長 京都電子計算(株) 駒井 一正  
委員 アド・プロヴィジョン(株) 河合 博康  
委員 (株)京信システムサービス 竹内 清量(欠席)  
委員 (株)近畿リサーチセンター 小島 耕一郎  
委員 けいしんシステムリサーチ(株) 小野 隆夫  
委員 (株)ケーケーシー情報システム 宇野 悟史  
委員 島津エス・ディー(株) 山本 孝  
委員 総合システムサービス(株) 古川 峰生  
委員 竹菱電機(株) 中村 徹  
委員 ワールドビジネスセンター(株) 中島 正司(欠席)  
事務局長 京都コンピュータ学院 和田 壽郎

主たる議題 (議事進行は駒井委員長が行う)

1. 会員増強活動の状況(継続案件)
2. 事務局報告
3. 各委員会活動報告
4. その他

1. 会員増強運動の状況(継続案件)

- ・ 大和電設新入会員申込書受理(紹介会員:近畿リサーチセンター)

2. 【第9回事業推進委員会:事務局報告事項】

- (1) ケータイ国際フォーラム参画・協力依頼について  
出展及び訪問団参加募集の概要報告
- (2) TKC「新公益法人制度の概要と新会計基準への以降と税務」セミナーに  
事務局長が受講申込を行い資料を入手した。  
(セミナーは本委員会と日程が重なり不参加)
- (3) 第9回会員親睦ボウリング大会実施報告  
平成18年12月1日(金)午後7時~9時30分実施  
21チーム参加し盛会のうちに無事終了した。  
団体の部 優勝 オムロンソフトウェア(株)A  
準優勝 京都コンピュータ学院A  
3位 京都電子計算(株)A  
個人の部 優勝 牧野 憲一(オムロンソフトウェア(株)A)  
準優勝 中村 裕之(けいしんシステムリサーチ(株)A)  
3位 上田 治文(京都コンピュータ学院A)
- (4) 『京都ビジネス交流フェア2007』広告協賛に伴う資料見本及び協賛金請求について

### 3. 各委員会の活動報告と課題

1) 広報委員会報告（河合委員長より）～下記「12月度事業推進委員会広報委員会資料」にて説明。

#### 平成 19 年度事業計画（案）

##### 府内情報産業の強化振興事業

京情協ニュース配信 【事務局】  
情報関連のニュース、協会の動向を協会員に限定せず、希望者に配信します。  
特にIT関連の行政情報（研究助成・補助事業・その他）について、当協会が  
受け皿となって情報産業界への浸透を図ります。

会員名簿発行 【広報委員会・事務局】  
平成 18 年度の実績に基づく「平成 19 年度版会員名簿」を発行します。

##### その他本協会の目的を達成するために必要な事業

【趣 旨】  
本協会の主たる事業を補完する事業、また主たる事業に関連する事業、にも取り  
組み、協会事業範囲の硬直性を排除して柔軟に対応していくことも重要なことと  
考えます。

【目 的】  
当協会事業の実効性の向上を目的とします。

【事 業】 【広報委員会・事務局】  
インターネットWebサイトのタイムリーな更新による、広報活動の促進

協会報『インターキョウト』の発行  
年間4回協会報を発行します。6月発行予定の総会号、新春号は6ページ立て、  
他は4ページとします。極力、会員企業の情報を掲載します。  
配布先の定期的見直しを行い、効率のいい配布を行います。

事務局との連携強化による情報収集の迅速化と広報活動  
京都府や他の関連団体と連携し、タイムリーなニュースリリースの提供などの  
広報活動を行ないます。

#### 広報委員会 平成19年度事業計画 予算案

会員名簿作成	70,000円
協会報インターキョウト34～37号	800,000円
Webサイト保守・サーバ管理費	360,000円
委員会開催費	30,000円
	合計1,260,000円

平成 19 年度（2007 年度）広報委員会

(株) カスタムウェア	常務取締役	廣瀬義治
(株) 京信システムサービス	金融システム部次長	荻野吉彦
京都システムズ(株)	代表取締役副社長	中島義雄
京都情報大学院・京都コンピュータ学院	広報部次長	湯下秀樹
京都電子計算(株) 管理室 総務部	マネージャー	横山日出男
島津エス・ディー(株)	管理部課長	伏見仁志
シーク電子工業(株)	代表取締役社長	田中正道
インフォニック(株)	情報技術部 (情報技術部長)	釘宮秀人 福本広一)
アド・プロヴィジョン(株)	代表取締役社長	河合康博

役割分担と方針

事業の役割分担

- a > インターキョウト 主担当 横山委員、副担当 伏見委員、  
及び 全委員担当
- b > 会員名簿 主担当 廣瀬委員、釘宮委員
- c > Web 主担当 田中委員、伏見委員、及び全委員担当  
サーバ管理荻野委員
- d > ニュースリリース対応 主担当 湯下委員・福本委員  
\* 議事録作成：中島副委員長 委員会議事進行：河合

方針

委員会開催日

2007 年 5 月 11 日、6 月 8 日、8 月 10 日、9 月 7 日、11 月 9 日、12 月 7 日  
2008 年 2 月 8 日、3 月 7 日 年間 8 回

各委員の担当

京情協の情報を円滑に収集・発信するため「広報委員の役割分担」を明確に  
します。

\* 委員会内部の情報や計画を把握し、広報活動に反映させる \*

< 具体的には、インターキョウト・Web 京情協への反映 >

事業推進委員会・・・ 河合、中島  
技術委員会・・・ 伏見、横山  
経営委員会・・・ 荻野、田中、釘宮  
地域情化報委員会・・・ 福本、廣瀬、湯下

委員会の進行方法

各事業の主担当が当該事項の議事を進行する  
毎回、各委員会報告を行う(各委員会担当委員)

2) 経営委員会報告(小島委員長より)～下記のとおり第4回経営研究会開催について報告。

日時 平成18年11月16日 16:30～18:45  
場所 京都コンピュータ学院新館4F会議室  
テーマ 「外国人技術者の活用」  
講師 野瀬 義幸 氏 (株式会社呉電子計算センター常務取締役)  
参加者 16社 22名  
コメント

今年度最後の研究会は、株式会社 呉電子計算センター 常務取締役  
中国事業本部長 野瀬義幸氏を迎え「外国人技術者の活用」をテーマに  
行いました。

20年を超える中国事業の経験を基に  
中国技術者の受入れ(派遣的受入れ)  
中国オフショア  
中国技術者の採用

という3つの角度から同社の現状と課題について具体的に分かりやすく  
講演していただきました。

文化や習慣の違いに対しては日本講座や中国講座、日中交流講座を開催  
したり、プロジェクト完了時に総括会をして対応されていることなどが  
紹介されました。

その他にも、キャリアアップへの不満や処遇への不満からくる経験者の  
流出への対応、経験不足からくる受入れ側の不十分な態勢の改善など  
について「信頼すれば信頼される」、「WIN-WINの関係構築」という  
興味深い点が結論として語られました。

また講演後、活発な質疑応答がありました。

最後に現在呉電子計算センターさんから中国技術者を受入れられている  
京信システムサービスさんからすこぶる優秀な技術者の働き振りについて  
話があり研究会を終了した。

なお、経営委員会の平成19年度活動計画・事業予算については、12月21日(木)  
開催予定の委員会で協議することが報告された。

3) 地域情報化委員会報告(古川委員長より)～下記のとおり報告された。

1. 目的

- ・KCAからの会費値下げ要望に対応して、緊縮予算が可能かを判断する必要性が生じている。
- ・例年より早く19年度の地域情報化委員会の事業及び予算を検討する必要がある。
- ・12月13日の事業推進委員会(地域情報化委員会は12月19日)に骨格は提示する必要性があり、  
主たるメンバー(次年度委員長:中川氏、前年度委員長:馬場氏、古川)で本年度の事業進捗を  
考慮し、叩き台を決定し、事業推進委員会(暫定版)に提示しています。
- ・12月19日の地域情報化委員会では審議し、最終決定をしていただきます。

2. 本年度事業と今後に対する取組み方

試作産業創出関連

- ・情報関連の引合は無い。及び京都試作センターのスタッフを考慮すると依存しても効果は  
期待できない。
- ・試作の仕組みは出来上がったと判断できる。個別企業が自社製品、自社の強味を個別営業

するよりも京都試作ブランドを利用する方が有利と判断して加わる、若しくは単独営業路線を継続するかの段階と考える。

- ・地域情報化委員会で情報を取得し、広報する段階は完了した。連絡会に出席しても義務(展示会出展、プレゼンしグループをPR等)が求められて別次元での参加になっている。
- ・18年度でこの取組は完了し、個別企業の取組とする。

#### 地上デジタル放送公共アプリケーション

- ・地上デジタル放送の利活用はITコンソーシアム京都の一部会として引き継がれている。
- ・ITコンソーシアム京都の部会としてはネットワーク部会・医療情報化部会・地上デジタル放送活用部会・情報セキュリティ部会が存在する。
- ・技術面よりも利用側面で新しい動向を調査し、広報していく事は地域情報化委員会の役目と考慮できる。
- ・部会活動に参加し、地域情報化委員会のメンバーには少なくとも部会の状況を報告する。
- ・一部部会に限定するかどうかは議論すべき事柄である。

#### 京情協の有様(他府県情報産業団体を参考に)

- ・京都府の予算は商工部や環境部のIT予算よりも電子府庁推進室の大きいと調査・研究に力を注いだ。
- ・11月17日の京都府電子府庁推進室の原田室長の講演にもあるように具体的な提案が求められる段階に有り動向調査段階ではない。自治体のビジネス思考の企業にはウオチングは必要レベルである。
- ・勉強会での宇野氏の提言にも有ったように京都府の施策に京情協の存在を認知して貰う事は有意義である。

#### 賀詞交歓の併設行事(セミナー)

- ・地域情報化委員会で引続き話題とする。
- ・11月22日に講師の招徳酒造の木村氏を訪ねた。逆境下でいろいろと工夫されている事及び柔軟性もお持ちな方と拝見した。
- ・次年度も担当を継続する。

#### その他(大学との連携)

- ・今期はシステムエンジニアリング岡山との情報交換会に尽きる
- ・次年度は大学の連携の切り口としてリクルートのやり方を取上げる。
- ・売り手市場となると人材確保には各企業とも苦労されている。京都で勉強されている有用な人材を京都の活性化に利用する事は意味ある活動である。  
各大学へのPR活動(取組んでいる事業、人材育成をどのように考えているか、インターンシップ等)を地道に実施し地元企業への定着化を図る。
- ・19年度事業の目玉とする。

### 3. おおまかな予算

- |                 |      |
|-----------------|------|
| ・産学交流会(リクルート活動) | 10万円 |
| ・新春セミナー開催       | 30万円 |
| ・委員会開催費         | 3万円  |

結果的には前年予算と同一の43万円となります。

1) 技術委員会報告(山本委員長より)～下記「12月度 事業推進委員資料」により説明。

平成18年12月13日

< 12月度 事業推進委員会資料 >

技術委員長 山本

技術委員会報告

1. 「SE/システム高度化研究会」開催状況  
「品質」、「情報セキュリティ」、「新技術利用&開発効」とも、第4回(最終回)の研究会を開催しており、2月の成果発表に向けた“まとめ”を行っている
3. 「情報技術マップ作成」の進捗状況について  
クロス分析結果に対する分野別傾向等についてのポイントの取りまとめを進めている。  
2月初旬頃に報告書としてまとめ上げ、2月下旬に報告書の冊子を会員各位へ送付する予定。
4. 2月の「オープン技術セミナー」開催について  
今年度の「技術セミナー」はWindows Vista & the 2007 Office systemの大幅に改善された各種機能を既存バージョンとの比較を交えたご紹介と、Windows Vista上でのアプリケーション開発(~.NET Framework3.0の紹介と開発手法)についてのセミナーを『京都IT実践フェア』としてマイクロソフトの協力を得て開催することとなった。  
また、本フェアでは最新製品を実際にさわって体験できる「タッチ&トライ コーナー」も併設することとなった。  
  
別紙(チラシ)を参照。
5. 平成19年度 技術委員会事業計画・予算(案)  
平成19年度の技術委員会事業計画・予算(案)を別紙のとおりとした。

以上

[ 別 紙 ]

平成18年12月13日

平成19年度 技術委員会 事業計画・予算(案)

技術委員会

- (1) 府民生活の向上に資する情報化促進事業  
情報化ホットライン事業  
情報技術に関するあらゆる問題解決のため、個人・企業・団体を問わず電話・FAX・インターネットによる情報化相談事業を推進します。 < 予算：20,000円 >  
コンピュータ・ウィルス情報広報  
コンピュータ・ウィルスの発生情報を収集し、感染現象、駆除・対処方法をホームページにて広報します。
- (2) 府民に対する情報関連技術の啓発・普及事業  
「オープン・技術セミナー」の開催(2月) < 予算：200,000円 >
- (4) 社会の発展に伴う諸課題に対する情報通信技術の利活用に関する事業  
情報化推進月間協賛「情報化フォーラム」の開催(10月) < 予算：200,000円 >

(6) 府内情報産業の強化振興事業  
「SE交流会」の開催

< 予算 : 450,000 円 >

若いSE管理者の交流会を開催し、交流会の発展型として「品質」、「新技術&開発効率」、「情報セキュリティ」などをテーマとする研究会に発展できればとするものです。このことにより技術委員会の活性化ならびに、同業他社との情報技術交換による課題解決やマネジメントの向上に役立てようという狙いです。

(キックオフセミナー 9月、各研究会4回 9月~12月、成果発表会 2月)

(8) その他本協会の目的を達成するために必要な事業

「京都府情報産業協会における情報技術マップの作成」に関する調査

< 予算 : 50,000 円 >

平成18年度に会員各位の情報技術利用動向の把握と今後の技術展開の方向性を明らかにするため、ITディレクトリを反映した「情報技術マップ」を作成しました。今後も調査を継続し情報技術に関する利用実績・着手意向の動向を明らかにすることで、会員各位の技術展開の方向性を見出す検討資料として役立て、本協会の基盤強化と活性化促進に繋げることを目的とします。

- ・技術委員会開催(5月、6月、7月、9月、10月、12月、1月、2月、3月:計10回)  
技術委員会費

< 予算 : 30,000 円 >

< 予算合計 950,000 円 >

以上

#### 4. その他

平成19年1月18日の理事会に向け作業スケジュールを確認した。

各委員長は所管委員会の平成18年度事業費実績見込み及び平成19年度予算案を年内に事務局にメールにて送信する。

以上

以上をもって委員会議事は終了し午後5時55分閉会した。

**次回委員会は、**

**日時 平成19年1月17日 (水) 午後5時より**

**場所 京都コンピュータ学院 京都駅前校 新館4階 会議室**

以上